

# 全国草原再生 ネットワーク

草原がつなぐ、人・自然・文化

ニュースレターvol. 10 (Apr., 2012)

〈発行〉全国草原再生ネットワーク  
<http://www.sogen-net.jp/>



## ■第9回全国草原サミットについて

### ◇ごあいさつ

春分の候、全国草原再生ネットワーク加盟の皆様方におかれましては、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、みなかみ町では、各方面にて御案内申し上げておりますように、来たる10月27・28・29日の三日間の日程において、「第9回全国草原サミット・シンポジウム in みなかみ」を開催致します。

これは、国土の約1%までに減少したかけがえない草原について、保全・活用を推進する関係者が一堂に会し、様々な取り組みや諸問題を取り上げる全国規模の大会でございます。

草原資源の管理（野焼き・茅刈り等）や利用（茅葺き屋根・飼料・肥料等）というテーマのほか、生物多様性という側面について、「環境・教育・観光」の切り口で意見交換し、全国へ向け発信する最良の場に致したいと存じます。

全国各地の皆様のお参加を、心よりお待ちしております。

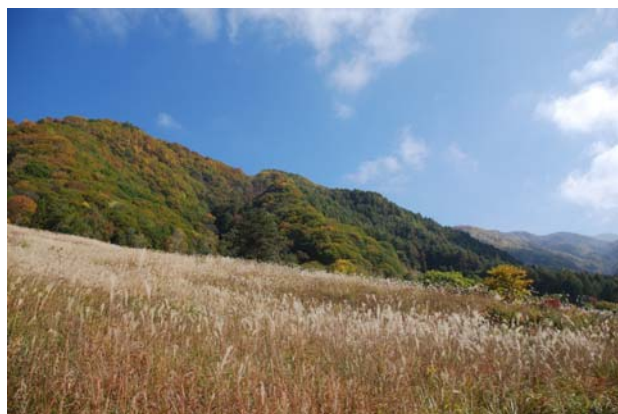
第9回全国草原サミット・シンポジウム in  
みなかみ実行委員会会長  
群馬県利根郡みなかみ町長

岸 良昌

### ◇現時点でのスケジュールおよび内容

#### 【開催地】

群馬県利根郡みなかみ町藤原  
上ノ原「入会の森」ほか



#### 【スケジュールと内容】

- 10月27日（土）  
13:00～16:30 現地見学会(茅刈り体験)
  - ・上ノ原 入会の森
  - ・雲越家住宅（国重要有形民俗文化財）
  - ・諏訪神社
- 10月28日（日）  
9:00～10:00 基調講演
  - ・和歌山大学システム工学部環境システム学科  
教授 養父志乃夫氏
- 10:15～11:45 事例報告
  - ・森林塾青水 「上ノ原入会の森」
  - ・乙女高原ファンクラブ 「山梨市乙女高原」
  - ・その他、調整中

13:00～14:30 分科会

- ・日本茅葺き協会 「ススキの利用」
- ・日本自然保護協会 「生物多様性」
- ・三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社  
「流域コモンズ」
- ・(調整中) 「エコツーリズム」

14:45～16:15 全体討論会

17:00～ 懇親会

□10月29日(月)

9:30～12:00 第9回全国草原サミット

□関連のイベント

- ・パネル展示
- ・物産展
- ・茅刈り検定
- ・草紅葉を愛でての野点
- ・キャンドルナイト・
- ・星の鑑賞会

## ◇これまでのあゆみ

平成21年9月26日～28日

第8回全国草原サミット・シンポジウム(北広島)

※町から観光商工課・観光協会職員が参加。また、みなかみ町で活動している市民団体「森林塾青水」がシンポジウムにて実践報告を行った。

平成23年6月11日

第5回草原再生ネットワーク総会

※みなかみ町での開催を表明した。

平成23年10月14日 第1回検討会議

平成23年11月30日 第2回検討会議

平成23年12月21日 実行委員会設立総会

平成24年3月21日 実行委員会(第二回)

平成24年4月5日 地元説明会



## ◇草原サミット事務局より

このたび開催させて頂く「全国草原サミット・シンポジウム」ですが、関東においては初めての開催となります。より良い「全国草原サミット・シンポジウム」と成りますよう準備を進めておりますので、全国各地の皆様のお参加を心よりお待ちしております。

なお、仮申し込みの受付を開始致しました。皆様お誘いあわせの上、お申し込みを賜りますよう重ね

てお願い申し上げます。

<お問い合わせ・お申し込み>

みなかみ町役場 環境課

〒379-1393 群馬県利根郡みなかみ町後閑318番地

Tel. 0278-25-5003

Fax. 0278-62-2291

(第9回全国草原サミット・シンポジウム事務局)

◇サミットに期待するもの

今年の10月27日～29日に群馬県みなかみ町藤原において、首都圏では初めて草原サミット&シンポジウムを開催することになりました。どのくらいの参加者があるのか不安ですが、東京の草原に関する研究者や活動団体、流域の市民が大勢参加してくれることを期待しています。

森林塾青水は、2003年4月に元入会地で町有林の藤原の上ノ原(21ha)を町と賃借契約を結び、管理・運営することになりました。地元の古老から入会地をどのように利用していたのか話を聞き、入会地の再生をおこなうことになりました。2004年4月、森林化が始まっていたススキ草原で野焼きを40年ぶりに復活し、タニウツギやシラカバなどを除伐しながらススキの育成をおこなってきました。

秋には茅刈りをおこない、刈った茅は藤原の雲越家住宅や諏訪神社の葺き替え、去年は震災仮設住宅の屋根の断熱材にも使われました。ここでは、霜が降りてから雪が積もるまでの1ヶ月くらいの間にススキを刈らなければなりません。そのため刈り手の育成として、茅刈り講習会、茅刈り検定をおこない刈り手の質と人数を増やしています。

草原の豊かな生物多様性を保全するため、モニタリングサイト1000に参加し、生き物調査を実施しています。かつては群馬県の70%の種類の蝶が上ノ原に生息していたと言われていました。昨年、みなかみ町の生物多様性戦略として設けられた「昆虫保護条例」の対象地域となり、自然環境及び生物多用途保全の活動をいっそう推進することになりました。

2009年地球環境基金の助成事業により「多面的価値のある草原を持続的に保全する仕組みの構築」調



査を行い、上ノ原が持つ生態系サービス価値について評価をしました。ススキの有効な利用(茅葺き、マルチ、断熱材など)の促進に加え、二次林では若返りのための伐採管理を行い、伐採木を薪やきのこの原木に活用する仕組みをつくるなど、資源の利用を図ることで草原と二次林が持続することを目論んでいます。

今回のサミットで、上ノ原の草原と二次林の価値を認識してもらい、地元、町民、県民、流域市民が活動に参加し、地元、森林塾青水、町役場、流域市民が一体となり、水源地域の奥里山を持続的に管理・利用するシステムができることを期待しています。

また今回のサミットが、自然と人が賢くかかわり合う地域づくりのきっかけとなり、上ノ原だけでなく、藤原地区やみなかみ町に下流の人が目を向け、何度も足を運んでくれるようになれば幸いです。

(浅川 潔：森林塾青水事務局)



## ■各地からの報告

### ◇京都府綾部市でかつて行われていたカヤ畑焼き

兵庫、神戸で観光面への期待が高まる大河ドラマ「平清盛」が始まった。第一回は、美しいススキの草原の場面で始まったが、どこかで見た風景と思ったら、村上春樹原作「ノルウェーの森」の映画化の舞台に魅かれて去年の秋に訪れた神河町の砥峰高原であった。このススキは、地元の人々がカヤとして利用するために毎年春に山焼きを行うことにより元気に芽吹く。こうして砥峰の草原は維持されてきた。

草原で有名なのは阿蘇の草千里であろう。日本書紀にも書かれているように、人々が牛馬を飼い、飼料としての草を生やすために野焼きをすることにより、千年以上草原という景観を保ってきた。

しかし、輸入牛が入り、畜産農家が減少し、高齢化もあいまって野焼きも難しくなり、人が手を入れず照葉樹林に戻すか、草原を維持するかという岐路に立たされた。地元の人々の議論により、阿蘇のあか牛を食べ、都市住民にも春の野焼きや秋の輪地切り（防火帯づくり）を手伝ってもらい、昔からの循環を維持しようという阿蘇グリーンストック運動「あか牛食って草原を護ろう」が始まった。

私は 1995 年の九州勤務の際にこの運動に出会ったが、現在まで市民団体、自治体、企業、学者、ボランティア等が協力してコモンズ（自然資源と共同管理）としての草原をなんとか維持している。草原は、あまり知られていないが、生物多様性、CO2 蓄積による温暖化対策、水源涵養、景観・文化面などのさまざまな恵みを持っている。

現在では、全国草原再生ネットワークも組織され、第 9 回草原サミットは十月に群馬県みなかみ町で開催される。春、砥峰高原は真っ赤に燃え上がる。森林、里山、棚田、湖沼などのコモンズとともに、草



坂尾呂神社の森の向こうにシデの山(731m)を望む



京都府綾部市(坂尾呂の里・鳥垣溪谷からシデの山へ)

原にも多くの人々に関心を持っていただきたいと思う。

以上を「草原を護る」という題で神戸新聞夕刊随想欄（2月13日）に書きました。以上の内容はネットワークの皆様は良くご存知と思いますので、以下、綾部のことを紹介します。

去年 11 月に京都府綾部市の「あやべ吉水」という古民家の宿に泊まりました。実は綾部市の山崎市長とは銀行の同僚だった縁で案内してもらいました。宿の主人の長谷川さんから鳥垣集落の自治会が纏めた「シデの思い出」という小冊子を見せていただきました。そこには 1965 年頃までシデの山でカヤ畑焼きが行われ、山頂に広がる平原から海が見えていたこと、その後手つかずになってしまい山が荒廃したこと、そして現在、地域の人々が山への道を復活しようとしていることが書いてありました。

去年 12 月に高橋佳孝さんと久しぶりにお会いし、

最近の活動の状況を教えていただき、当方からは鳥垣の話しをご紹介しました。このようなご縁で今、書かせていただいています。

長谷川さんから、三月に河川敷や畦などの草を焼く岸焼きが行われ、大変残念なことに強風にあおられて高齢の男性が焼死されたことをお聞きしました。限界集落化する地域において、どうやってこのような作業を続けていくのか本当に難しい課題だと思います。

(前田正尚)

昭和 35 年 火の渦を巻いて  
燃え下がるズンド平原



### ◇関東の小さな火入れ地を訪ねて

関東にはいくつか火入れ地があります。代表的な場所では渡良瀬遊水地や箱根の千石原などがありますが、もっと小さな火入れ地も見ることができます。例えば、小貝川や田島ヶ原などです。これらの場所では希少な植物の保全のために火入れが行われています。

2012 年の春、渡良瀬遊水地の火入れの中止が決ま

#### 1. 菅生沼

菅生沼は約 10 年前から火入れを行っている場所で、約 2ha 程度の面積を燃やしています。ここはタチスミレという絶滅危惧植物が生育している場所でその保全のために、茨城県立自然博物館が主体となって活動を行っています。今年の火入れは中止となりましたが、その代替策として草刈を実施しました。

ったことを私はニュースで知りました。昨年の原子力発電所の事故の影響が不安視されたことが要因の一つのようです。関東の他の地域では、今年の春の火入れは行われたのでしょうか？ そんな疑問から、関東の小さな火入れ地（小貝川、菅生沼、田島ヶ原、成東・東金食虫植物群落）を訪ねました。

地域住民や学生とともに草刈を行ないました。この際に刈った草をそのまま放置すると、今年のタチスミレの生育に悪い影響が出ることが考えられたので、刈った草はシートに載せて移動させ、刈り草の除去を行いました。約 2 時間の作業で 0.5ha 程度の範囲の草を刈ることができました。



写真 1. 草刈の様子



写真 2. 草刈後の菅生沼

## 2. 小貝川

小貝川では、タチスミレやチョウジソウなどの植物の保全のために火入れが行われています。ここでは、昨年よりも燃やす面積は減ったものの、例年通り火入れが行われました。火入れの前には輪地切りがしっかりと行われ、火を入れる際にはジェットシューターを持った人が配置につき、安全に火入れを行いました。火入れの終了間際に、くすぶっている

火を丁寧に消している人を見かけました。何のために行っているかを尋ねたところ、「土の中まで温度が上がり、植物の根や種が死なないように、くすぶり続けている場所を消して回っている」との事でした。小さな面積を丁寧に保全している。そんな印象を受けた場所でした。



写真3. 火入れの様子



写真4. くすぶった火を消す様子

## 3. 田島ヶ原

田島ヶ原は JR 武蔵野線 西浦和駅から徒歩約10分で行くことができる、非常に都会の近くに位置する火入れ地です。ここは、「田島ヶ原サクラソウ自生地」として特別天然記念物に指定されていて、サクラソウが咲く4月後半には多くの人が訪れるそうで

す。2月中旬に訪れた際には、火入れが終わっており、真っ黒になった地面のあちらこちにノウルシの芽生を多く見ることができました、また一部にサクラソウの芽生も確認することができ、春が段々近づいている様子を見ることができました。



写真5. 火入れ地（遠くにマンションが見える）



写真6. ノウルシの芽生え

#### 4. 成東・東金食虫植物群落

ここは、日本で初めての天然記念物の一つに指定された場所で、多様な食虫植物がみられる場所だそうです。私が訪れた3月には火入れが終わった段階で、それらの植物を見ることはできませんでした。ここでは火入れや草刈、ススキの芽掘りなど、様々

な保全対策を行って、食虫植物群落を維持しているそうです。植物のガイド等も駐在スタッフが行なってくれるようですので、時期になればまた訪れたいと思いました。



写真 7. 火入れ地の様子



写真 8. 火入れ地の様子 2

#### まとめ

今年も、関東では様々な場所で火入れが行なわれているようでした。きっと、多くの人の植物に対する思いによって、このような活動が維持されているのでしょう。

今後も、このような取り組みが続いていくためにも、皆さんで、火入れ地や草原を注意深く見守っていきましょう。

(増井大樹：東京都在住)

#### ◇三瓶山で3年ぶりに火入れが行われました

島根県大田市に位置する三瓶山では、3年ぶりに火入れが行われました。一昨年は、悪天候が続いたため、昨年は、地元消防署が震災対応で手薄となり、安全面が確保できないことから中止となりました。

2年間実施できなかったため、ススキの立ち枯れや、ハギ類や灌木が目立つようになり、実行委員会では、何としても火入れを行いたいという気持ちで準備を進めてきました。当初の予定は3月23日、予備日が3月24日でしたが、悪天候のためいずれも順延としました。27日に延期したのですが、そこも雨天で、最終的には3月28日に実施することができました。

数回の延長と、また平日であったこともあり、参加者は、市役所職員、消防署員、NPOなどの環境団体や関係施設のメンバーでの対応となりました。

参加者は、消防署が用意して下さったジェットシ

ューターを背負い、また火を入れる周辺では消防車などにより放水を行い、失火・延焼がないように細心の準備をしてから火を入れていきました。

三瓶山では、参加者を複数の班にわけ、そこに班長を配置、班長が火を入れ、他の班員が延焼防止に





あたるようにしています。ただし、班長が火を入れはじめると、他の班員の動きを指示するものがないくなる弊害があるため、本年度から、副班長をつくり、班員の指示にあたる仕組みに改めました。

失火や延焼、参加者のケガなども無く、火入れは無事に終わりました。より安全な火入れを目指して、少しずつですが、工夫を重ねながら、続けていければと思っています。

(事務局)

## ■書籍紹介

### ◇草地と日本人ー日本列島草原1万年の旅ー

著者：須賀丈・岡本透・丑丸敦史

出版社：築地書館

¥2,000 (税抜)

ISBN978-4-8067-1434-7

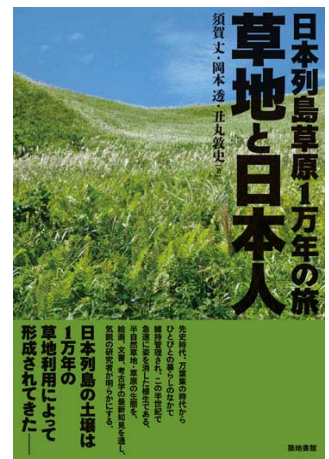
先史時代、万葉集の時代からひとびとの暮らしのなかで維持管理され、この半世紀で急速に姿を消した植生である、半自然草地・草原の生態を、絵画、文書、考古学の最新知見を通し、気鋭の研究者が明らかにしています。(同書の紹介文より)

<序章>

<第一章> 日本列島の半自然草原 ひとが維持した氷期の遺産

<第二章> 草原とひとびとの営みの歴史 堆積物と史料からひもたれる「眺めのよかった」日本列島

<第三章> 畦の上の草原 里草地



## ■草原をめぐる動き (2012年1月～4月)

4/28-29 第1回 上ノ原「入会の森」の口開け (場所：群馬県みなかみ町藤原、連絡先：森林塾青水)

5/13 遊歩道作り (場所：山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ)

5/13、27、6/10 スミレ観察会 (場所：山梨県山梨

市牧丘町乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ)

※上記以外の情報もホームページで随時公開しています。

### 全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol.10 2012年4月号

全国草原再生ネットワーク事務局

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 376-1

NPO 法人緑と水の連絡会議内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-84-0262

【編集後記】この秋に行われる「第9回全国草原サミット・シンポジウム」の全容が少しずつ固まってきたようです。基調講演や事例報告が決まるとともに、地元の方々への説明会も進んでいるようです。ニュースレターでも、会員のみなさまに最新の情報を届けながら、盛り上げて行きたいと思っています。引き続きまして、ご協力をお願いいたします。